

29 Jun. 2010



第38号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区

市谷砂土原町 1-2-34KSKビル3F

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.jaaga.jp

平成22年度総会・講演会及び懇親会



New President Tsumagari

平成22年度JAAGA総会が5月20日(木)、グランドヒル市ヶ谷において、講演会、懇親会とともに開催された。

【総会】総会は15:00から16:15の間、正会員64名が参加(委任状150名)して実施された。冒頭、故平野晃氏、故伊藤修氏のご冥福を祈り、黙祷が行われた。

最初に遠竹会長からは、総会参加者への謝辞と「会長に選任されてからほぼ2年が過ぎました。これまで、理事長及び会長として計4年間JAAGA活動に参加して参りましたが、改めてJAAGAを創設され育てこられた諸先輩を始めご支援頂いた皆様に深く感謝申し上げます。



Former President Tohtake

JAAGAの活動は、航空自衛隊と米空軍の相互理解と友好親善に寄与することをその趣旨としているところですが、それには当然のことながら、航空自衛隊と米空軍のJAAGA活動に対するご理解とご支援がなければ成り立ちません。

これまで、外圍航空幕僚長をはじめ航空自衛隊の皆様には、解決すべきことの多い隊務運営のなか、JAAGA活動に大変なご理解を頂きました。改めて感謝する次第です。そして、第5空軍の皆様には積極的な関与を戴いております。むしろ後押しされている感も致します。また、2008年2月に着任されたライス司令官は、日本勤務はもとより外国勤務を経験されておりませんが、着任以来、日本の心を理解

しようと努力され、日本人の感覚に限りなく近い配慮をされているとっております」との挨拶があった。トピックとして、ワシントンにおける新たな動きについて、「JAAGA名誉会員のマイヤーズ大将やエバハート大将等が核となって在日米軍OBの組織化、つまり、日米友好関係のネットワークを構築中であり、5月末には、『在日米軍OB同窓会(仮称)』の立ち上げが発表される方向で話が進んでいる。このネットワーク造りには、在米日本大使館の関わりが大きい」ということも紹介された。

その後、第1号から第4号までの議案が審議された。平成21年度事業報告、同決算報告及び監査報告並びに平成22年度事業計画及び同予算に関する各々の議案について担当理事から説明があり、いずれも提案通り承認された。米軍行事への関わり方、大学生の米軍研修、会勢の拡張等に関する質疑応答があり、所要の検討を継続していくこととされた。

第5号議案として、役員を選任が行われ、津曲義光氏が第7代会長として選出されたほか、副会長、監事、顧問、新任理事等の新年度の役員が選出された。

遠竹会長からは、「この4年間に皆様から頂いたご厚誼とご支援に心から感謝申し上げます。来年15周年を迎えますが、JAAGAの益々のご発展をお祈り申し上げます」との退任の挨拶があり、津曲新会長



General Assembly, JAAGA

からは、「新たな体制で、空自と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与するJAAGAの更なる発展のために、一丸となって努力する所存であります。宜しくお願い致します」との就任の挨拶があった。

最後に、新旧役員の紹介があり、新役員には健闘を期待し、退任の役員には功績を讃え、それぞれ拍手が送られた。(第1号議案から第5号議案の詳細は、22ページから27ページのとおり。)

【講演会】講演会は16:30から、約1時間半、正会員、賛助会員(個人、法人)及び第5空軍司令官ライス中将などの招待者約160名が参加して行われた。講師は、第5空軍副司令官アンジェレラ少将であり、「50 Years of SECURITY and COOPERATION (Focus on evolution of the two countries relationship (from a military perspective) past to present) (50年に亘る安全保障と協力態勢一軍事からみた2国間関係の進展:過去から現在)」と題し、熱意溢れる講演をされた。



Lecture by Maj. Gen. Angelella

講師の経歴が司会から紹介された後、講師は、講演の機会を得たことへの謝辞を述べられ、日米の安全保障及び協力に関して、過去から現在に至るまでの進展の過程、最近の協力態勢、あるいは、日本及び米国での勤務経験から感じたこと等について、話を展開された。そして、「二つの国が強い絆を維持してきたこの50年というのはとても長い年月であり、頭に浮かんだいくつかの出来事を紹介させていただきました。私のずっと後の後任がJAAGA50周年記念行事で私の様に皆様にお話をする幸運に恵まれば良いなという風に思います」と話をまとめられた。その後の質疑応答では、会員から多くの質問が出されたが、アンジェレラ少将は、ユーモアを織り交ぜながら真摯に答えられていた。

(講演の内容は、16ページから21ページのとおり。)

【懇親会】懇親会は18:00から約1時間半、約160名が参加して行われた。中谷衆議院議員、高見澤防衛政策局長、岡崎装備施設本部長、長島航空幕僚副長(航空幕僚長代理)、岩崎航空総隊司令官、航空幕僚監部・航空自衛隊各部隊の代表等、また米国側からは、ライス第5空軍司令官ご夫妻、アンジェレラ第5空軍副司令官、そして、JANAF(日米ネービー友好協会)岡副会長、村木つばさ会会長等、多数の招待者と来賓を仰ぎ、盛大な懇親会となった。



Reception (Speech by New President Tsumagari)

最初に、JAAGA会長が交代したことが紹介された後、主催者である津曲新会長からは、ライス司令官が大將に昇任されることへの祝福とともに、「1996年創設以来、歴代会長を始め会員の皆様が育ててこられましたこのJAAGAの運営に精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

JAAGAは、航空自衛隊と米空軍の相互理解と友好親善の増進に寄与する事業を推進し、日米両国の信頼性の向上に貢献することを目的としております。来年JAAGAは、創設15周年という大きな節目の年を迎えることとなります。この間の航空自衛隊と米空軍からのJAAGAに対します深いご理解と積極的なご支援・ご協力の下、JAAGAは、会員の皆様方の献身的なご尽力によりまして着実にその実績を積み重ね今日の姿かたちに発展をしております。



Speech by Gen. Rice

米国同時多発テロ発生以来、未だ世界的にテロは頻発し、核・ミサイルの開発・拡散など多様な脅威が存在し、我が国周辺におきましても中国の不透明な軍拡ともいえる空海戦力の増強、北朝鮮の核・ミサイルの問題等、領土・資源の問題と相俟って不確実・不透明・不安定な要因が継続をしております。

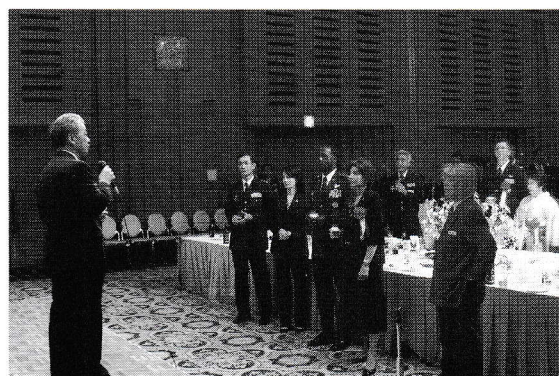
我が国の防衛及び東アジアの安定は、日米同盟が必要不可欠のものであることは論を俟たないところでありますが、その信頼性の向上は我が国の不断の防衛努力の継続によって成り立つものであります。横田、三沢、沖縄地域での現場における密着したJAAGAの活動が、航空自衛隊と米空軍の信頼性向上のための具体的な行動として大いに意義のあることだと思えます。

JAAGAは航空自衛隊OBからなる正会員と個人および法人の賛助会員の皆様のご理解、ご協力により運営されております。新しく選任されました役員を含めJAAGAの更なる発展のため一丸となって努力を傾注する所存でありますので、今後とも会員皆様の絶大なるお力添えを頂きますようよろしくお願い致します」との挨拶があった。

来賓を代表して、中谷衆議院議員、長島航空幕僚副長（航空幕僚長代理）及びライス第5空軍司令官

から、それぞれ、JAAGAの活躍に期待する旨の真心を込めたご祝辞を戴いた。

村木つばさ会会長の力強い音頭で乾杯が行われ、宴が始まった。多数の招待者、賛助会員を含め、華やかで和気あいの懇親会となり、米軍関係者との歓談の輪が随所にでき、また、先輩と後輩や旧知の間柄の会員たちが旧交を温めるなど、時間の経つのも忘れてしまうほどの盛り上がりを見せた。最後に、ライス司令官昇任の祝福、アンジェレラ副司令官講演の御礼とともにJAAGA創立15周年記念での再会を期して、榎副会長の音頭での乾杯が行われ、懇親会は締めくくられた。（広報担当理事記）



Final toast by Vice President Enoki

日米共同訓練参加隊員の激励



JAAGA Supported Cope North Guam

平成22年2月15日（月）、堀、原田、射場理事が航空総隊司令部を訪れ、日米共同訓練（コープ・ノース・グアム）参加者に対する激励品を、訓練視察出

発直前の岩崎航空総隊司令官に託した。司令官からは「本訓練の開始当初から実施されているJAAGAの支援に対し、隊員は大変有難く思っています」との感謝の意が表せられた。

今回の訓練は、展開・撤収を含み1月26日（火）から3月2日（火）の間、アメリカ合衆国グアム島アンダーセン空軍基地及びファラロン・デ・メディニラ空対地射場並びに同周辺空域において実施された。空自からは、約220名の隊員と第8航空団のF-2×8機及び警戒航空隊のE-2C×2機が参加して、戦闘機戦闘訓練、防空戦闘訓練及び空対地射爆撃訓練が行われた。（原田理事記）



Cope North Guam 10-1

日米下士官相互部隊研修を支援



JAAGA supported JASDF-USAF NCOs Exchange program

平成22年2月5日（金）、廣瀬理事長、新井、田中、源理事が、横田基地にアンジェレラ第5空軍副司令官を訪ね、平成21年度日米下士官相互部隊研修（空自空曹の受入）に対する支援品を手渡した。

副司令官からは、下士官の交流が米軍にとっても

非常に有益であり、JAAGAの支援には大変感謝していますとの御礼の言葉があった。1月に着任したばかりの第5空軍先任下士官も同席し、日米下士官の交流が相互の理解・友好親善増進に大きく寄与していることなどが話題となった。

（源理事記）



Exchange program in Matsushima

[平成21年度の日米下士官相互部隊研修状況]

受入部隊等	期 間	参加人員	受入部隊等	期 間	参加人員
空自那覇基地	21.10. 1～10. 9	6 名	第18航空団 （嘉手納）	22. 2.12～ 2.18	7 名
空自松島基地	22. 2.22～ 2.26	7 名	第374空輸航空団 （横田）	22. 2.24～ 3. 4	7 名
			第35戦闘航空団 （三沢）	22. 3.24～ 3.30	8 名

日米隊員表彰

平成22年2月、平成21年度JAAGA日米隊員表彰式が那覇、入間及び三沢の航空自衛隊基地において、各基地隊員並びに嘉手納、横田及び三沢の米軍関係者の協力支援を得て実施された。

本表彰行事は、平成10年度に開始されて以来、今年度で12回目となり、全表彰者数は、総計81名（航空自衛隊45名、米空軍36名）を数えることとなった。

受賞者及び功績の概要

区分	所属部隊	受賞者	功績の概要
空自	那覇救難隊 (那覇)	1等空曹 熊坂 弘樹 	米空軍第18航空団所属の第31, 33救難中隊との各種親睦行事等を積極的に企画・運営するとともに日米共同救難訓練（コープ・エンジェル）において米空軍担当者との綿密な調整を実施する等、航空自衛隊と米空軍救難部隊との相互交流の促進に貢献した。
	航空総隊 司令部 (府中)	空曹長 北林 樹 	日米共同訓練、日米下士官交流、日米上級下士官集合教育等に関する日米間の調整業務に永年携わるとともにスペシャル・オリンピックス、フロストバイト・ロードレースマラソン、語学教育等横田基地における各種行事を積極的に支援した。
	航空保安管制群 (入間)	1等空曹 森 潤史 	横田ラブコンにおいて米空軍航空管制業務に関わる技術を積極的に修得するとともに米空軍管制官に対し日本の管制環境を周知させるなど横田空域の飛行安全に尽力した。
	第3航空団 (三沢)	准空尉 大澤 茂雄 	北部航空方面隊司令官杯綱引き大会等の日米交流行事を積極的に企画・調整し航空自衛隊准曹士隊員と米空軍下士官及びその家族等との融和・親睦を積極的に図った。
米軍	第18航空団 (嘉手納)	MSgt. Dennis O'Grady 	100名以上の航空自衛隊員に対する嘉手納基地研修を企画・実行するとともに下士官アカデミーにおいて2人の航空自衛隊准曹士隊員の教育に貢献した。
	第374空輸航空団 (横田)	MSgt. Alex Montiel 	地域の災害や大事故への対処に関する日米共同訓練や演習における協力要領の確立・進展に主導的役割を果たし、これまで上級司令部間で調整されてきた共同訓練と異なり横田基地に所在する空輸航空団が地方自治体の初動対処部署や市役所と直接調整できる新たな体制を確立した。
	第35戦闘航空団 (三沢)	MSgt. Michael W. Wachob 	米軍三沢基地国際関係委員会委員長として恒例の千歳基地との日米下士官相互研修はもとより三沢基地における各種日米交流行事の改善、発展に寄与した。

— 沖縄地区表彰式 —



JAAGA Award in Naha

平成22年2月5日(金)、那覇救難隊の熊坂1等空曹、米空軍第18装備品整備中隊のオグレイディ空軍曹長に対する沖縄地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊那覇基地において実施された。

表彰式及び懇親祝賀会は、那覇基地隊員クラブの「ブルー・コーラル」において開催された。参加者は、南西航空混成団司令平田空将、第83航空隊司令宮川空将補以下12名の空自関係者、第18航空団司令ウィルズバック准将以下7名の米空軍関係者、沖縄県防衛協会事務局長山縣正明氏、那覇基地協力会副会長伊差川義男氏他2名の基地協力者、そして、遠

竹会長、名富沖縄支部事務局長以下3名のJAAGA会員を含めた総勢26名であった。

表彰式は、18名の南西航空音楽隊による日米国歌の演奏から始まった。遠竹会長は、JAAGA活動の意義、そして多くの関係者、特に那覇基地による積極的な協力、支援に対する謝意を述べるとともに、日米2名の受賞者には表彰状を、そして奥様方にはそれぞれ記念楯を授与し、それぞれの功績を祝福した。

ウィルズバック准将と宮川空将補は、受賞者へのお祝いの気持ちとともに、日米の友好親善と信頼関係促進の重要性等を述べられた。

懇親祝賀会は、沖縄県防衛協会事務局長の「祝辞と乾杯」、日米友好親善を祈念しての「鏡割り」から始まった。途中、那覇救難隊・ヘリコプター空輸隊のメンバーを主力とする那覇基地太鼓部による「和太鼓演奏」と魔除けの「獅子舞」が披露された。日米の受賞者から挨拶があり、今回の受賞を誇りに思うとともに、奥様への感謝の気持ちを強く述べられたのが印象的であった。

— 関東地区表彰式 —



JAAGA Award in Iruma

平成22年2月10日(水)、航空総隊司令部の北林空曹長、航空保安管制群本部の森1等空曹、米空軍

第374空輸航空団監査部のモンティール空軍曹長に対する関東地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊入間基地において実施された。

表彰式は「入間イン」、懇親祝賀会は「第2厚生センター」において開催された。参加者は、中部航空方面隊司令官渡邊空将、中部航空警戒管制団司令兼入間基地司令池田空将補以下18名の空自関係者、第374任務支援群司令ラファエル・ケサダ大佐以下5名の米軍関係者、入間航友会

副会長荻野喜美雄氏、入間基地青年同友会副会長前島久尚氏、入間基地退職者雇用協議会会長豊田義継

氏、そして、清水副会長以下5名のJAAGA会員を含めた総勢31名であった。

表彰式は、9名の入間基地軽音楽部“ZOOT36J”による日米国歌の演奏から始まった。清水副会長は、JAAGA表彰行事の目的、そして多くの日米関係者、特に入間基地による積極的な理解、協力に対する謝礼の言葉を述べるとともに、日米3人の受賞者と奥様にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を賞賛した。

第374監査部長のダニエル J. コーディ少佐からは、JAAGAに対する謝意とともに、「日米の友好親善と信頼関係の促進には、友人としての繋がりが

大事」との祝辞があった。池田空将補からは、受賞者への祝意とともに、「日米安保制定50周年を迎え、日米友好親善と信頼関係の促進努力は益々重要」との祝辞があった。

懇親祝賀会は、入間航友会副会長の祝辞とともに、受賞を祝い、日米同盟の益々の発展を祈念しての乾杯で始まった。3人の受賞者からは、今回のJAAGA表彰の受賞を誇りに思うとともに、「今後とも、それぞれの立場に応じた日米交流活動を継続したい」との挨拶があった。最後に小川JAAGA理事が御礼の挨拶と乾杯をし、表彰行事は有意義かつ楽しい雰囲気の中で幕が閉じられた。

—三沢地区表彰式—



JAAGA Award in Misawa

平成22年2月19日（金）、第3航空団基地業務群第3基地防空隊の大澤准空尉、米空軍第35戦闘航空団第35整備隊のワーカブ空軍曹長に対する三沢地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊三沢基地において実施された。

表彰式及び懇親祝賀会は、三沢基地隊員クラブ「おがわら」において開催された。参加者は、北部航空方面隊司令官彌田空将、第3航空団司令兼三沢基地司令 前原空将補以下12名の空自関係者、第35戦闘航空団司令官スティルウェル大佐以下8名の米軍関係者、三沢市自衛隊協力会専務理事中屋敷義美氏、三沢ボリューム会会長稲川三津雄氏、三沢地域自衛隊退職者雇用協議会会長一戸米司氏他2名の基地協力者、そして、越智副会長以下5名のJAAGA会員を含めた総勢30名であった。

表彰式は、5名の北部航空音楽隊による日米国歌の演奏から始まった。越智副会長は、JAAGA表彰の目的と実績を紹介し、日米関係者及び基地周辺協力者の皆様による積極的なご理解、ご協力に対する謝意を述べるとともに、日米2人の受賞者と奥様にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を称え祝福した。

スティルウェル大佐は、流暢な日本語を交え、日米二人の受賞

者への祝意とともにJAAGAへの感謝の言葉を述べ、「話し合いを続けることの大切さ」を強調された。前原空将補は、日米受賞者への祝意とともに、日米空軍と周辺協力者との連携がもたらす三沢基地特有の存在意義について触れ、「各レベルにおける地道な努力が必要」と述べられた。

懇親祝賀会は、受賞を祝し、日米友好親善の益々の進展を祈念しての三沢市自衛隊協力会専務理事の乾杯で始まった。今回の受賞を誇りに思いつつ、ワーカブ空軍曹長からは「違いを乗り越えることの大切さ」、大澤准尉からは「Yes, we can!」との力強い言葉が述べられた。最後に丸山JAAGA三沢支部長が流暢な英語による挨拶と乾杯を行い、表彰行事は有意義かつ暖かい雰囲気の中で終了となった。

(香川理事記)

SPORTEX' 09 B開催



SPORTEX' 09 B at Tama Hills G.C.

平成22年4月29日(木)、前年度から繰越されたSPORTEX' 09Bが米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて行われた。航空自衛隊から溝口航空支援集団副司令官以下26名、米空軍からアンジェレラ第5空軍副司令官以下26名、JAAGAから遠竹会長以下48名、日米双方合わせて100名がゴルフ競技に参加した。米側2名、日本側2名のボランティアが運営を支えた。

早朝4時半のゲート・オープンから参加者が集まり始め、ドライビング・レンジでの練習、クラブ・ハウスでの朝食の後、クラブ・ハウス前の広場で開会式が行われた。

遠竹会長は、多くの参加者に謝意を表するとともに「ライス司令官からSPORTEXはいつも雨で、遠竹会長は雨男だと言われていましたが、今日はいいい天気になって良かったと思います。楽しみましょう」と挨拶した。会長からは、5名の女性参加者も紹介された。アンジェレラ副司令官は「JAAGAの皆さん、航空自衛隊、米軍から多くの方々が参加して頂き有難うございます。フェアウェイにとどまってグッド・スコアが出ることを期待しています」との挨拶をされ、溝口副司令官は「本日のセット・アップ、JAAGAの皆さんに感謝しています。日頃良い日米関係で仕事をしていますが、今日のゴルフが親睦を深める一助になれば良いと思っています」との挨拶をされた。最後に、女性参加者代表の挨拶があ

り、SPORTEX' 09Bは開始となった。

やや肌寒いコンディションの中を、日米混合の26組は夫々のスタート・ホールに移動し、7時になるのを待って一斉にスタートした。途中、強風と驟雨に見舞われたが、競技は順調に進捗し、正午過ぎにはプレーが終了。各組毎にスコアの確認、昼食、懇談となった。

表彰式では、優勝、準優勝、第3位、10位毎の飛び賞、ベスト・グロ賞、ニア・ピン賞等、多くの参加者が表彰された。特定順位者には、航空幕僚長、アンジェレラ副司令官、会長からの特別賞が、ボランティアには感謝の品が渡された。

最後に、会長から「SPORTEX' 09Bを今日に変更するのに、アンジェレラ副司令官始め関係者に大変お世話になり有難うございました。いつもお世話になっている多摩ヒルズのスタッフに改めて御礼申し上げます。皆さん、次回のSPORTEXも宜しくお願いします」との挨拶があった。アンジェレラ副司令官からは、5月20日のJAAGA総会での講演の話と「グリーン上でのコオペレーションが日米の関係を強くするのに良いことだと思っています。今日は有難うございました」との挨拶が、飯田航空総隊司令部幕僚長から次回は是非ご婦人方も沢山参加して頂きたい旨の挨拶がそれぞれあり、SPORTEX' 09Bは終了した。

(源理事記)

名誉会員マイヤーズ元大将来日

平成21年12月7日（月）、JAAGA名誉会員であるマイヤーズ元大将（元米統合参謀本部議長）が日経・CSIS共催シンポジウムのメイン・コメンテーターとして来日された機会を捉え、杉山元統合幕僚会議議長、遠竹会長、吉田元空幕長、越智副会長、廣瀬理事長、山本、永岩理事が参集し、再会を祝すとともに日米同盟関係の更なる強化に関わる互いの関心事項等について意見交換した。

注目される事項として、JAAGA米国訪問団が平成21年9月に在米日本大使館を訪問した際、藤崎大使の方から「信頼性の高い日米同盟関係を確立する

上での具体策の一つとして、日本に勤務したことのある米軍人のリスト化を図り信頼の草の根ネットワークを構築したい」旨、申し出があったが、マイヤーズ元大将によると、この体制整備はその後にも積極的に推進されている模様であり、近い将来、具体的な組織造りがなされる見込みとのこと。この体制が整うと、JAAGA設立の趣旨が更に拡大・強化されることとなり、このプログラムの今後の更なる発展を期待したい。

（永岩理事記）

名誉会員ホール元中將を訪問



with Gen. Hall (Ret.)

平成22年3月18日（木）、来日中のJAAGA名誉会員、元在日米軍司令官ホール元中將を遠竹会長と大谷会員、堀理事が都内に尋ね、約1時間懇談した。ホール元中將は1997年から1999年まで司令官としてご活躍されたが、1985年ごろの沖縄勤務から第5空軍司令部勤務時代の思い出も含め話題が尽きることなく、有意義な時間を持つことができた。

（堀理事記）

横田基地・米海兵隊ボール2009

平成21年11月14日（土）、横田基地で行われた「アメリカ合衆国海兵隊234歳大祝宴」にJAAGA会員が参加した。

今年の横田基地USMCボールは、オバマ政権下でNASA長官に就任したチャールズF.ボールデン

氏（退役米海兵隊少將）を主賓として招待するものであった。ボールデン氏は、1980年にNASAの宇宙飛行士として選抜され4回の宇宙飛行任務（最後は米ソ宇宙船ドッキング時の米側船長）を経験し、1998年7月から約2年間USFJ副司令官として日本

勤務経験がある。このことから、USFJ副司令官ジョンA. トゥーラン米海兵隊少将の取計いなどを得て招待される運びとなった。当時日本側で統幕勤務や関連基地司令等として親交のあった大橋武郎会員、岡本智博会員、越智通隆副会長、阪東理事が夫人同伴で参加した。祝宴は、エア・フォース・ボールと異なりフォーマルな晩餐会スタイルで行なわれた。1775年11月10日の海兵隊創設から順に歴戦のエポックを辿ったUniform Pageant（時代行列）で始まった。祈祷、栄誉礼、日米国旗入場、両国歌斉唱、レジューム大將訓示朗読（1921年海兵隊教範第38条）、ケーキカットの儀典等が続いた。下士官以上は全員サーベル帯刀で、抜刀の各種動作に古き伝統を感じた。余興では、空軍の第374空輸航空団隊員有志で結成したサムライ太鼓の撥も大いに弾んでいた。

ボールデン氏は、JAAGA参加者との日本勤務当時の思い出をはじめ、海兵隊で培われたものがNASAでの勤務にも助けとなったこと等に触れると



USMC Ball in Yokota

もに、「アメリカ海兵隊は今の今も世界に展開してその任を肅々と果たしていることこそが世界に冠たる所以である」とユーモアを含めスピーチされた。非常に強い口調で会場の海兵隊員を鼓舞しているのが印象的であった。

これからのJAAGAの活動にもユニフォーム・カラーを越えた広がりや繋がりの方を考えておくことも必要と感じた。

（阪東理事記）

ライス中将主催のオープンハウス



Christmas party at LTG Rice's residence

平成21年12月5日（土）16：30から18：00の間、米軍横田基地ケニー・コート内の司令官官舎において、在日米軍司令官兼第5空軍司令官ライス中将夫妻主催のオープン・ハウスが実施され、航空自衛隊主要幹部、基地周辺市町首長、JAAGAメンバーが主として招待された。航空幕僚監部から外蘭航空幕

僚長、長島幕僚副長、各部長等、府中基地から岩崎航空総隊司令官、森下航空支援集団司令官、入間基地から渡邊中部航空方面隊司令官、秦航空開発実験集団司令官がそれぞれご夫妻で参加されていた。JAAGAからは、遠竹会長、廣瀬理事長、小川、高橋、阪東、源理事が参加した。随所にクリスマス・ツリー、オーナメント等が飾られ、クリスマス・ムードが溢れる中、横田基地関係者等も交え終始和やかな雰囲気での歓談が進んだ。後半には、クリスマス・ソングを米軍人が披露し、そして、ライス司令官推奨の「It's the Most Wonderful Time of the Year」を全員で熱唱し、会は大いに盛り上がった。最後に、ライス司令官が「良いお年をお迎えください」と日本語で挨拶を締めくくられ、行事は終了となった。

（源理事記）

ヒックス横田基地司令送別会

平成21年4月14日に着任したヒックス大佐は、13ヶ月間の日本勤務を終えることになり、送別レセプションが平成22年5月6日夕に横田基地オフィサーズ・クラブで開催された。第374空輸航空団／横田基地の主催で、基地周辺友好クラブ、周辺自治体及び官公庁関係者等の日本側を対象にした会であり、航空自衛隊からは糸永府中基地司令が参加されていた。

女性を含めた勇壮な横田基地 SAMURAI 太鼓の撥の音でオープニングし、日頃から横田基地関連の行事で顔を見知りあった人達の集まりの感があり直ぐに打解けた賑わしい雰囲気となった。

締めめの「さよならスピーチ」では、「子供が誕生して基地を離れる機会を余り持てなかったことは残念な気がします、米空軍軍人として色々な機会を



Farewell party for Col. Hicks

通して日本の理解を深め、多くの皆さんと知り合えた事に感動しています」旨の話をされ、最後は、ゆっくりとした日本語で「日本の皆様に心より感謝申し上げます」と挨拶された。

(阪東理事記)

JANAFAsの定例秋季懇親会



Reception of JANAFAs (US-Japan Navy Friendship Association)

平成21年11月25日(水)、JAAGAの友好団体である日米ネービー友好協会主催の定例秋季懇親会が、横須賀市本町の「よこすか平安閣」で行われ、JAAGA会長代理として理事長が参加した。

懇親会には、来賓として杉本自衛艦隊司令官及び

バード第7艦隊司令官他多数の日米現役が参加し、石川JANAFAs会長の主催者挨拶に続き河村海幕副長が海幕長代理として祝辞を述べた。石川会長は、日本語及び英語で日米関係の現状を踏まえた丁寧な挨拶をされるとともに来賓の紹介を行い、JAAGAからの参加者も紹介を受けた。その後、石川会長から在日米軍と海上自衛隊との友好親善に貢献した日米の個人隊員に対して感謝状が贈呈された(春の年度総会では部隊を対象とのこと)。

この懇親会は、会場が米海軍横須賀基地の前という土地柄か米海軍関係者が多く参加され、また夫人同伴が多いこともあり、和やかな雰囲気の中で会話が弾んでいた。

(廣瀬理事長記)

横田友好クラブ合同新年会



Friendship Club's New Year's Party at Yokota AB

平成22年1月17日(日)、午後6時から横田基地下士官クラブにおいて「Friendship Clubs' New Year's Party」と称して「横田基地近隣市町友好クラブ合同新年会」が催され、JAAGAからは越智副会長、廣瀬理事長、高橋、阪東、源理事、近隣からの会員石川氏がそれぞれ参加した。また、航空自衛隊からは入間、府中の両基地司令が出席されていた。

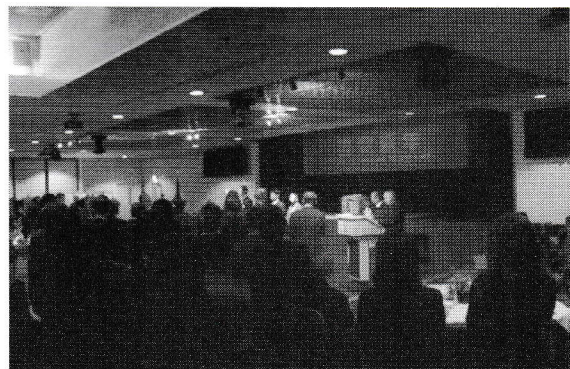
近隣市町の友好クラブは昨年から青梅市も加わり、「福生横田交流クラブ」、「あきる野横田交流クラブ」、「瑞穂横田交流協会」、「羽村横田友好クラブ」、「武蔵村山横田友好クラブ」及び「青梅横田交流クラブ」の6グループに加え、新年会は昨年にも増して盛大なものとなった。

会は儀仗隊による国旗掲揚、瑞穂青少年吹奏楽団による日米両国歌吹奏で始められ、基地司令挨拶、群司令等の紹介、6クラブ代表挨拶、各クラブ会長紹介、来賓代表挨拶、来賓の紹介等が行われた。

横田基地司令ヒックス大佐からは、新年の挨拶とともに、良き友人たちの支援に感謝しており、今年も素晴らしい友情を益々堅固なものにしていきたい旨の挨拶があった。6クラブを代表して瑞穂横田交

流協会会長からは、横田基地と地域住民との係わりの歴史、浜松におけるB-29搭乗員慰霊祭のこと、また、地元出征兵士遺族への日章旗返還セレモニー(シスラー基地司令時代の行事)の思い出等を振り返ると、戦後65年を経た今日、6クラブ一体で賀詞交歓が行われることは実に意義深いことである旨の挨拶があった。途中、浜松のB-29搭乗員慰霊祭主催者の紹介、挨拶も行われた。その後、鏡開き、乾杯、食事・歓談と続き、さらには、瑞穂青少年吹奏楽団による演奏等があり、日米友好親善の会は大いに盛り上がった。最後には「手締め」が行われ合同新年会の幕は閉じられた。

(源理事記)



Ceremony at Party

JAAGA 講演会

— 統合幕僚監部運用部長齋藤空将 —



JAAGA Lecture by LT. Gen. Saitoh

平成21年11月19日（木）、14：00からグランドヒル市ヶ谷において、統幕運用部長齋藤治和空将を講師としてJAAGA講演会が開催された。演題は「統合運用の今」であり、会員の関心も高く、約100名が聴講した。講師は防大22期生で、F-15戦闘機操縦者として活躍され、米空軍指揮幕僚課程を経て、第6航空団司令、航空救難団司令、空幕運用支援・情報部長、航空総隊司令部幕僚長を歴任され、本年3月、現職に就任された。

講演では、はじめに、平成18年3月の統合運用開始以降の自衛隊の活動状況に触れられ、警戒監視、災害派遣、国際緊急援助活動など、様々な活動に従事し、活動は益々「多様化」、「国際化」（GLOBAL ACTIVITY）していることを説明された。以降、具体的に、「弾道ミサイル対応」、「東シナ海における警戒監視活動」、「災害派遣活動」、「海賊対処行動」について説明された。

「弾道ミサイル対応」では、統幕に着任直後から対応に没頭したことなど、裏話を交えながら、破壊措置準備命令、破壊措置命令、編成、展開状況などについて説明された。

「東シナ海における警戒監視活動」では、東シナ海周辺監視飛行による油ガス田等の状況を継続把握していること、あるいは、中台新航路設定への対応

をしていることなどの事象を紹介された。

「災害派遣活動」では、統合運用前・後の震災対処勢力の比較をされ、運用の一元化による成果を説明された。また、官邸等との連絡体制が充実し、政府と一体となった対処が行われていること、災害派遣に係る協力要請・各自衛隊間の連携が緊密化してきていることなどが説明された。

「海賊対処行動」では、アデン湾における、アジア・欧州を結ぶ重要な海上交通路の状況、海賊の現状を説明され、派遣部隊の編成、活動内容、護衛調整要領、関係国・関係機関との連携、そして、対処の状況について、逸話を含めながら紹介された。

おわりに、人材を育成し、わが国に最適な統合運用体制を確立していく必要があることを述べるとともに、指揮統制機能、情報共有基盤、警戒監視体制、国際活動のための体制等の構築、関係省庁との調整・連携の強化等、今後の統合運用見直しの方向性についてまとめられた。質疑応答では会員から、災害派遣の地方自治体との連携の実態、離島防衛の検討状況、周辺事態対処の検討状況などについての質問がなされ、時間的制約があったが講師はこれらに丁寧に回答をされた。講演終了後、会長から講師への謝辞があり、記念品が贈呈された。

（源理事記）

（詳細は、JAAGAホームページ）



Audience at the Lecture

賛助会員の那覇、嘉手納基地研修



Associate members visit to Naha AB

平成22年2月18日(木)、19日(金)、JAAGA賛助会員による那覇基地と嘉手納基地研修が実施された。法人賛助会員フィル・インフォメーション(株)の太田茂氏を研修団長、個人賛助会員の外木守雄氏を副団長とし、JAAGAから随行の小川、新井、高橋(健二)、石渡、源理事5名を含み、32歳から82歳までの幅広い年齢層の総勢36名の研修団であった。C-1特別便運航の計らいを受け、出発地の入間基地、給油中継地の新田原基地、目的地の那覇、嘉手納基地での絶大なる支援を得て、タイトなスケジュールではあったが、2日間の大変充実した有意義な研修となった。各部隊の運用状況の説明、戦闘機等の実機研修等を通じて、日米安全保障体制の重要性を再認識し、友好親善を図るという本研修の目的は十分に達成された。

第1日目(2月18日(木)) ;

入間基地では、遠竹会長の見送りを受け、08:50に特別便C-1は中継地の新田原基地に向け離陸した。中継地の新田原基地に10:50、着陸し、米沢第5航空団司令から歓迎の挨拶を受け、短い時間ではあったが隊員の心尽くしの昼食を囲んで、基地主要幹部との懇談が行われた。

11:50、新田原基地を離陸し、那覇基地に向った。経路上下層に雲が広がっており、小雨降る中13:30、

那覇基地に到着した。早速、旧砲台跡の高台から基地の全貌を見学するとともに、基地施設全般の説明を受けた。その間、研修団長、副団長、小川理事は、平本南西航空混成団副司令及び宮川那覇基地司令を表敬した。

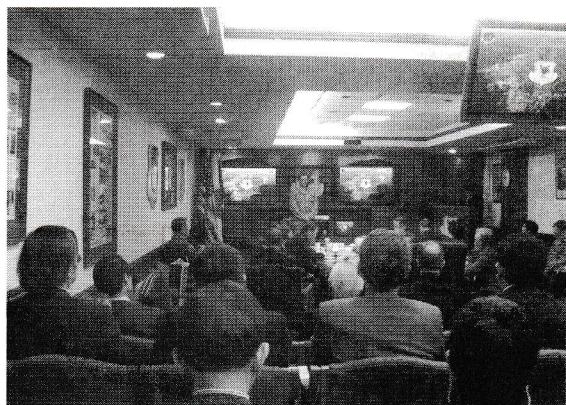
14:00、南混団副司令から状況説明があり、南西方面の航空防衛の現状、周辺諸国の軍事力の状況、わが国防衛の最前線として精強な部隊づくりに邁進している状況等について、分かりやすく説明を受けた。基地渉外室長からも基地概要説明が行われ、基地を取り巻く防衛環境について理解を深めることができた。その後、第204飛行隊を訪問し、F-15戦闘機を見学した。搭乗員に説明して頂き、緊張感溢れる任務、訓練の様子を伺うことができた。

15:30、那覇基地を出て、嘉手納基地に向かった。16:30、第18航空団渉外部の當間女史の出迎えを受け、そのまま、嘉手納基地内のバス・ツアーとなり、広い敷地内の各種施設を見学した。基地中央を走る道路で概ね二分化され、滑走路側が運用関係の事務所等、反対側が住宅、学校、運動場等となっているとのこと。四つの小学校、二つの中学校があり、規模の大きさを伺い知ることができた。

17:10、外来宿舎(Shougun Inn)にチェック・イン。各部屋には第18航空団司令ウィルズバック准将の歓迎メッセージとサプライズ・ギフトが置いてあり、その心遣いに感激した。

17:45からのカクテル・タイムに続き、18:15から将校クラブにおいて夕食懇談会が行われた。航空自衛隊側から南混団副司令、第83航空隊司令ほか基地主要幹部、南混団准曹士先任等、米軍側から、ウィルズバック第18航空団司令ほか基地主要幹部、第18航空団先任下士官等、そして、JAAGA沖縄支部から石津支部長、名富事務局長、総勢20名程の方々に参加を頂いた。

最初に、ウィルズバック准将がJAAGAの活動に



Command briefing at Kadena AB

対する感謝と歓迎の挨拶をされ、続いて、小川理事が研修受入に対する御礼の挨拶を行った。ビュッフェ・スタイルの夕食であり、和やかな雰囲気のもと懇談が進められた。アトラクションとして拳龍同志会の小・中学生7名による空手演舞が披露され、その迫力に喝采の拍手が送られた。その後、太田研修団長が御礼の挨拶を述べるとともに、米軍側に戦闘機の模型をプレゼントした。ウィルズバック准将からは返礼としてチーム・カデナの写真が贈られた。終了間際、隣室で行われた奥様方の着物着付け教室のメンバーがファッション・ショーを行うサプライズがあり、大いに会は盛り上がった。外木副団長の音頭により締め乾杯が行われ夕食懇親会は終了となった。その後、将校クラブのラウンジに移り、夜の更けるに任せ研修団員相互の懇親を深めた。

第2日目（2月19日（金））；

07：20、宿舎を後にし、ゴルフ場にあるティー・ハウスに向かい、ビュッフェ・スタイルの朝食をとった。団の前任幕僚プランク中佐と若手のオフィサー5名とテーブルを囲み、食事をしながらの懇談となり、米軍軍人との良き交流の場となった。

08：50、団司令部において、基地の活動状況について、ウィルズバック准将自らのブリーフィングを頂いた。第18航空団が米本土に駐留したことがない部隊であること、ニック・ネームがショウグンであり日本の将軍の精神を持っていること等の紹介の後、第18航空団の任務、重視事項、太平洋のキー・ストーンといわれる地政学上の重要性、そして弾薬庫地区

を含めると三沢・横田・クンサン・オサンの四基地がすっぽり入る基地の広さ、運用群・整備群・医療群・任務支援群・施設群の組織・任務、地元との交流活動状況等について細かく分かりやすく説明をされ、会員は熱心に聞き入っていた。質疑応答では、20年前に勤務されていた時との違い、アフガニスタン等への派遣状況等についての質問があり、准将は丁寧に回答をされていた。

09：50、飛行場地区を移動しながら、プランク中佐と普久原女史から施設等の説明を受けた。滑走路北側エプロン地区には我々のためにF-15、KC-135、HH-60が並べられており、それぞれの飛行隊の搭乗員からの説明を受けた。写真撮影は一切禁止であったが、基地広報カメラマンから全員での記念写真を撮って頂いた。准将の先導で団司令部に帰る途中、サプライズであったが、F-15の離陸を間近に見ることができ皆感激していた。11：20、関係者の見送りを受け、嘉手納基地を後にした。

12：00過ぎ、那覇基地に着き、見晴らしの良い隊員食堂において体験喫食を行った。厚生センターで沖縄の土産を買い、売り上げに貢献した後、C-1に乗り込み、13：40、那覇基地を後にした。15：00、新田原基地に着陸し、若干の休憩を取ったが、その間コーヒーがサービスされ、心温まるもてなしにまた一同感激した。15：30、新田原基地を離陸し、16：45過ぎ、入間基地に無事着陸、二日間に亘る全日程を滞りなく終了した。各基地での熱心で心温まる支援に改めて感謝申し上げたい。（源理事記）



Explanation on aircraft, Kadena AB

50 Years of SECURITY and COOPERATION

(Focus on evolution of the two countries relationship
(from a military perspective) past to present)
By Maj.Gen. Angelella, Vice Commander, 5th Air Force



Good evening, I would like to thank you for inviting me to speak at what has become a truly prestigious event for Air Force officers here in Japan. I feel particularly honored to be invited today for two reasons. The first is personal to me. As many of you may know, when the JAAGA was formed in 1996, I was on my first assignment here in Japan. Its mission, to promote mutual friendship and understanding between the U.S. Air Force and the Japan Air Self Defense Force. With a common love of aviation and a desire to serve our countries as a foundation for that understanding, JAAGA has easily stood the test of time and every time I've come back to Japan since then, I've witnessed firsthand the tremendous work you've done. In many ways, the JAAGA mission mirrors the 5th Air Force mission. In my role as the vice commander of the 5th Air Force, I am charged with 3 primary mission areas that are the focus of the U.S. Forces in Japan and 5th Air Force Commander, Lieutenant General Rice.

These are : Taking Care of Our People, Strengthening our Joint and Bilateral Defense Capabilities, and Building Better Relations with our Japanese counterparts and neighbors. As I stated, very similar to the JAAGA mission. This brings me to the second reason I'm honored to be speaking here tonight. This year is particularly special because it's the 50th anniversary of the Treaty of Mutual Cooperation and Security between the U.S. and Japan.

Our relationship is based on the shared interests and values embodied by the treaty and the fact our alliance has stood the test of time is a testament to the importance our countries place on that relationship.

When we talk about the treaty we often emphasize the security aspect, but it's the cooperation aspect that has really kept the alliance strong. As all of you understand as either former JASDF members or supporters of our common interests, it is usually the cooperation aspect that is most important.

There have been hundreds of projects that have strengthened our alliance over the years and many of those would not have been possible without those of you in this room. And so as I speak about some of the achievements we've seen over the last several decades, especially those that have been significant to the Air Force, I'd like to say thank you, as many of these would not have been possible without the efforts of those of you here tonight.

Even prior to the signing of the 1960 treaty, in 1954, 5th Air Force played a role in helping to develop the Japanese Self Defense forces. One of the first tasks that we took was advocating for a separate JASDF. Having just become a separate service ourselves a few short years earlier, I can tell you from the U.S. perspective; this would have had special meaning to those originally involved. As in the U.S., the idea that a separate aviation corps was needed in Japan met with a lot of initial resistance, but as the JASDF has proven, a separate Service, dedicated to properly employing airpower is an indispensable part of a nation's ability to defend itself and I'm proud that 5th Air Force played a role in that part of our shared history.

Moving forward a few years to the late 50s, the 5th Air Force would take on another strong advocacy role through its encouragement of the Japanese aviation industry. This included pushing to have Japanese companies manufacture some of the parts and conduct maintenance on U.S.

aircraft and in helping to establish the contracts that allowed Mitsubishi to build F-104Js under license from Lockheed.

Today, Japan is one of a small handful of nations in the world that can manufacture its own fighter aircraft and although I certainly wouldn't take credit for that as Japan has always had a reputation for superior aircraft, I am proud of the small role we were able to play in those early years. It was also around this time 5th Air Force and the JASDF began working together to hand over control of early warning radar assets to Japan. Such an event can only be accomplished through many, many months of hard work and dedication by a great many staff officers behind the scenes. I can imagine the pride they might feel now knowing how their work at the beginning contributed to a missile defense capability and interoperability unequaled by any other partnership in the world today.

So those were a few of the achievements that stood out in my mind of the many we've shared together. There are many more I could cover and I apologize if I missed an event that's personally significant to anyone in the room. But I thought I'd take the time I have left to skip forward to my current tour in Japan and some of the recent milestones of cooperation that I've witnessed.

Many people look at some of the current challenges we're having and see it as a sign our alliance is not as strong as it once was, but if you look past that to the things that we have accomplished under the Defense Policy Review Initiative program you will see levels of security cooperation previously unheard of in the history of the alliance; programs and projects that will more than set us up for success over the next 50 years.

Our Aviation Relocation Training for example has made vast improvements recently that make the training more realistic, increases the amount of interaction between U.S. and Japanese participants both in the air and on the ground, and makes the scenarios more complex. Last year at Komatsu we conducted our largest event to date. This was also our first joint, bilateral event involving both U.S. Marine Corps F/A-18s and Air Force F-16s along with JASDF F-2s.

I am a firm believer in this program and one of our goals is to expand it to include more locations, more diverse airframes and an even greater number of aircraft. The ATR program gets to the heart of the U.S Air Force mission here in Japan and promotes the same type of bilateral relationship and interoperability inherent in the JAAGA mission as well. I believe it to be one of the most important things we do and if any of you ever find yourselves in a position to advocate for it, I assure you we would be extremely grateful.

Even more significant will be the relocation of the Japan Air Defense Command to Yokota Air Base. When the ADC becomes operational at Yokota we will have a fully integrated U.S./Japan base for the first time in the history of the alliance and usher in a level of cooperation our predecessors couldn't have dreamed of.

The growth and demonstrated threat of ballistic missile capability in East Asia, as well as rapidly modernizing air combat and air defense capabilities of other nations in the region, required a strengthened operational defensive capability and cooperation for the air forces of both the United States and Japan in order to maintain a credible deterrent capability. Coordinating forces in one key location sends a clear message that this is exactly what the alliance will provide. Equally important, however, is that the addition of around 1400 JASDF personnel who will become our new neighbors and provide both countries with the chance to build a better alliance at the individual level.

There are two other recent events I'd like to mention and although they are unrelated to the DPRI process they reflect well on the state of the alliance.

The first was the transfer of Radar Approach Control in Okinawa from the U.S. back to Japan and the second was the recent deployment of equipment and personnel from the Japanese Self Defense Forces to assist with relief efforts in Haiti.

The fact that the RAPCON transfer has gone virtually unnoticed by the millions of air travelers flying in and out of Okinawa is a direct testament to the hundreds of hours of work and training on the part of Japanese and U.S. personnel to ensure a smooth transition. Handing control of Japanese airspace back to the Japanese is also a clear symbol that our alliance is a partnership of equals.

Japan's relief efforts in Haiti demonstrated Japan's commitment to global security and I was proud to see the U.S. Air Force play a small role in that. I'm sure many of you know that the self defense forces were involved in Haiti relief operations, but you may not know the story of what took place behind the scenes to make this happen.

At the time, there was a JASDF C-130 deployed to Travis Air Force Base in California on another mission. As you know, C-130s are the perfect aircraft for these types of operations but this one was without the cargo equipment needed and on the opposite coast from where it needed to be in the U.S. in order to assist. This is where the U.S. Air Force was able to help coordinate equipment loans and flights on short notice to ensure the JASDF were able to deliver a medical team of 25 U.S. doctors and 5 tons of supplies to Port au Prince. They were also able to return to the U.S from Haiti with 34 stranded American citizens and conduct several more round trip missions over the next couple of days. Having done my fair share of time as a staff officer over the years I know how we often complain about the slow wheels of bureaucracy but this was an excellent example of how when things need to get done, together, we WILL get them done.

To the retired JASDF members in the audience, you should know that the fine general officers and colonels working in the air staff offices and the major commands are firmly entrenched in the successes of these projects. They are the reason we've revived the Air Component Issues Committee, an air component only, bilateral discussion forum chaired by myself and the Air Staff Office Director of Intelligence and Operations. One of the immediate outcomes of the ACIC was the recent coordination and signing of the Bilateral Cooperation Roadmap or BCR. The BCR not only fulfills General Hokazono and Lieutenant General Rice's desire for a strategic framework to guide interactions between our two Air Forces but will focus our discussions on 3 main priorities: to successfully implement DPRI Roadmap initiatives, to effectively accomplish the Alliance Transformation and Realignment Agreement initiatives and to promote bilateral training and exercises.

We will continue to refine and update that strategic vision with a 3-5 year look forward.

And finally, these JASDF officers are the reason the training programs and operational successes of the Air Defense Command and Air Support Command are a model for cooperation in the Asia Pacific region.

One final subject I'd like to discuss is the evolution of the U.S. Air Force organizations here in Japan. Specifically the 5th Air Force staff and the addition of 13th Air Force Detachment One. As many of you know, my position is dual-hatted. That is, I am both the 5th Air Force Vice Commander and the 13th Air Force Deputy Commander Forward.

In both of these roles, close interaction with the JASDF is critical. The 5th Air Force focus continues to be interaction with the Air Staff Office and DPRI along with the forums I just discussed like the ACIC and the Bilateral Cooperation Roadmap. The 13th Air Force though Detachment One works closely with operational commands for JASDF. This close interaction with ADC and ASC in exercises like Keen Edge helps prepare us for a broad range of contingencies including humanitarian assistance, disaster response and theater defense.

Both staffs work closely together and I lead the Air Component Coordination Element while combining both organizations to support the USFJ commander and the 13th Air Force Commander, or Joint Forces Air Component Commander, in Hawaii.

One final word about what's going on. I talked a lot about the past and present at the

leadership level and I'm proud of all that we've accomplished there. But I would fall short if I didn't thank the young Airmen and officers in the JASDF and U.S. Air Force that make the mission happen every day. Our Air Force Chief of Staff, General Schwartz, and Secretary of the Air Force Donnelly designated 2010 the Year of the Air Force Family to recognize and focus on the young families and thank them for all of their sacrifices.

I wanted to mention this for two reasons. First, because I try to recognize the efforts of our family members whenever possible and that we couldn't accomplish our mission without their support. This is as true in Japan as it is in the U.S. And second, because I consider all of us to be part of a larger Air Force family, tied together by that common love of aviation and air power that I mentioned at the beginning of this talk.

And there you have it, I've gone on way too long but as I conclude, I'd like to thank you again for inviting me to speak today. Fifty years is a long time for two countries to maintain such strong ties and I've tried to highlight just a few of the things that have stood out in my mind. JAAGA is certainly one of those things. I'd like to think down the road one of my successors will be lucky enough to be addressing this same audience on the JAAGA's 50th anniversary. Well maybe not the EXACT same audience but you never know, the Japanese are famous for their long lives.

I could probably talk to you for another few hours and only scratch the surface on the projects we've worked together over the years, but I wanted to allow time for any questions you may have. Arigatogozaimashita.

『50年に亘る安全保障と協力態勢』

(軍事からみた2国間関係の進展：過去から現在)

講師：第5空軍副司令官 アンジェラ少将



皆様こんばんは。本日は日本において日米のエアフォースの空軍将兵の間で有名な行事となったこのイベントに講師としてお招きいただき、ありがとうございます。お招きいただいたことを光栄に思う理由が二つあります。一つ目は個人的なことであります。

皆様ご存知のように、JAAGAが1996年に設立された当時、私は初めての日本勤務をしておりました。その目的は、航空自衛隊と米空軍の友好関係と相互理解の促進でありました。航空に関することへの愛情と、自国への奉仕をその理解の基礎とし、その優良性が時間をかけて証明されていきました。私が日本へ戻ってくるたびにJAAGAの素晴らしい活動をこの目で見て参りました。

いろいろな意味においてJAAGAの任務は第5空軍の任務と良く似ています。第5空軍副司令官の私には、在日米軍兼第5空軍司令官ライス中將の焦点に沿った三つの主要な任務があります。それらは、空軍関係者のケア、統合共同の防衛機能の強化とカウンターパート及び周辺住民の方々とのより良い関係の構築です。

先ほど申しましたように、JAAGAの任務と大変よく似ています。そしてこれが私が本日ここにいることを光栄に思う二つ目の理由につながります。今年は日米相互協力及び安全保障条約締結50周年の節目という特別な年にあたります。

我々の関係は安保条約によって具体化された共有する利益と価値に基づいており、同盟が時の試練に耐えてきたという事は、日米両国がこの関係を重要視してきた証でもあります。

安保条約について語るとき、しばしば安全保障の面を強調しますが、協力という面が強固な同盟を維持してきました。航空自衛隊のOBや支援者の皆様はよく理解されていると思いますが、大体的場合協力面が最も重要であります。数十年に亘り数々のプロジェクトがこの同盟を強くしてきました。それらはここにおられる皆様無しでは成し得なかったことです。これまでの実績について、特に空軍にとって重要ないくつかを話しますが、皆様の協力無しにはできなかったことでありますので、まずは感謝の意を表します。

1960年の条約への署名前から第5空軍は自衛隊の設立に関わっていました。その一つに単独の航空自衛隊の設立があります。その数年前に独立した軍種となった米空軍と同様に、航空自衛隊の設立に携わった日本のエアメンには特別な意味があったことでしょう。当時のアメリカ国内では、日本に独立した航空部隊が必要との案には抵抗もありましたが、航空自衛隊が証明してきたように、独立した航空軍種は、適切な航空力の展開に専心することで国防能力の不可欠な要素となります。第5空軍が航空自衛隊設立の歴史の一旦に関わることができたのは誇りであります。

50年代後半になりますと、第5空軍は日本の航空産業の強化促進という新たな役割を担いました。日本企業による部品の製造や米軍機の整備の奨励、そして航空自衛隊初の国産戦闘機であるF-104Jを三菱重工がライセンス生産のするためのロッキード社との契約作りを支援しました。

早期警戒レーダーの管制を第5空軍から航空自衛隊へ移譲するための作業を始めたのもこの頃です。このような事業は何ヶ月ものハードワークと舞台裏で働く大勢の優秀なスタッフによってのみ達成できるものです。彼らの当時の仕事が、現在のミサイル防衛機能や世界のほかの同盟には例を見ないほどの相互運用性の構築の基となったことをきっと誇りに思っていることでしょう。

日米の協力態勢のさきがけとしていくつか紹介させて頂きましたが、他にも多数このような事例があります。ここにいらっしゃる方々が関わった仕事を漏らしてしまったのであればお詫びいたします。時間に限りがあるので、時計の針を進め、現在の私の任務と最近の協力態勢の成果について述べさせていただきます。

現在のいろいろな課題を見ると、多くの人は日米同盟が以前ほど強くない印であると見るかもしれませんが、視線を移して通称DPRIと呼ばれる「国防政策見直し協議」プログラムにおいて実現した事業を見れば、前例のないほどの協力態勢で成し遂げられたことがお分かりいただけると思います。これらは今後50年以上に亘っての成功の礎となるものであります。

飛行訓練移転を例にとって見ますと、訓練がより現実的になり上空及び地上における日米の訓練参加者間の関わりが一段と増し、シナリオはより複雑になりました。昨年には小松基地においてこれまでで最も規模の大きい訓練を実施しました。この訓練には海兵隊のF/A-18、空軍のF-16そして航空自衛隊のF-2が参加して、初の統合共同の航空訓練となりました。私自身がこの訓練の信望者であり、より多くの地域でより多様な航空機と機数の参加を促進してこのプログラムを更に拡大することを目標としています。訓練移転プログラムは第5空軍の任務の核となっており、日米関係と相互運用性の向上というJAAGAの目的と同じであります。我々の仕事の中でも最も重要なものの一つであり、もし皆さまが訓練移転プログラムの更なる促進を推奨して下さるのであれば、大変ありがたく思います。

更に意義深いものとして、航空総隊司令部の横田基地への移転があります。東アジアにおける弾道ミサイル能力の増大と脅威及び、地域内の他の国々の急速な航空戦力と防空能力の近代化を見るとき、信頼性のある抑止力維持のために、強化した防衛能力と相互運用性が航空自衛隊と空軍に必要であります。同様に大事なことは、約1,400人の航空自衛隊員が新しく隣人となることによって、個人レベルにおけるより良好な関係構築の機会が日米両国に与えられることであります。

DPRIとは関連はありませんが、現在の同盟の状態を如実に示した最近の出来事を紹介いたします。一つ目は沖縄のラブコンの日本への返還であり、二つ目はハイチでの災害復旧支援活動のために自衛隊員と機材が派遣されたことであります。

空から沖縄に出入りする何万人もの旅行者にほとんど気づかれることなくラブコンの返還が実施できたのは、円滑な移行を保証するために、日米のスタッフが何百時間とその作業にかけたからであります。日本の空域の管制を日本に返還するという事は、この同盟が対等なパートナーシップであることの象徴であります。

ハイチにおいて日本が行った救援活動は、世界規模の安全保障に対する日本のコミットメントを示しました。自衛隊がハイチにおいて救援活動に参加されたことは、もちろん皆さんご存知とは思いますが、舞台裏で起こったことはあまりご存知でないと思います。ハイチで地震が起きた時、航空自衛隊のC-130が別の任務のためにカリフォルニアのトラビス基地にいました。C-130は救援活動にはぴったりの航空機ではありますが、その機体には貨物用の装備がなく、アメリカが支援をするにもそれが可能な地域とはとはまったく反対側にいました。

航空自衛隊が25名のアメリカ人医師と5トンの救援物資をポルトープランスまで輸送することができるように、装備の貸与とフライトの調整を急遽米空軍が支援しました。また、ハイチからアメリカに戻る際には34名のアメリカ人の被災者をアメリカ本土まで移送し、更に数日間に亘って何度か往復して任務を行いました。私自身、何度か幕僚として仕事をした経験の中で、お役所仕事の遅さに辟易したのですが、今回の事例は、やらなければならないことがある時には、一緒に達成できるという例を示すことができました。

OBの皆さんにぜひ知って頂きたいことは、空幕やメジャーコマンドで働く将官や1佐の方々は、このようなプロジェクトの成功を定着させていることであります。彼らのおかげで、航空に関する様々な案件を日米で協議する場であったACICを復活させることもできました。復活したACICでの成果の一つは、BCRと呼んでいるロードマップのための共同委員会です。BCRでは外衛空幕長とライス司令官が求める、航空自衛隊と米空軍の共同の取り組みを導くための戦略的枠組みの構築や三つの主要な優先事項について協議を行います。その三つとは、DPRIのロードマップを成功裏に実施すること、効率的に同盟の変革と再編の合意を実施すること、そして日米共同訓練と演習の促進であります。3年から5年先を見据えながら、適時精査し、アップデートしていきます。

航空自衛隊の皆さまのおかげで、航空総隊や支援集団との訓練プログラムや運用の成功がアジア太平洋地域における協力態勢の模範となっています。最後は、日本における米空軍の発展、特に第5空軍と第13空軍第1分遣隊についてお話をいたします。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、私は第5空軍の副司令官と第13空軍の前方副司令官を兼務しております。

二つの仕事にとって航空自衛隊との緊密な関わりは極めて重要であります。第5空軍の焦点は、空幕との連絡調整と再編事業、先ほどお話ししたACICやBCRなどです。第13空軍は第1分遣隊を通して航空自衛隊の運用部隊と緊密に仕事を進めています。キーンエッジ等の演習での航空総隊と支援集団との緊密な連携は、人道支援活動を始め、災害救援活動や地域の防衛に至るまで幅広い事態に即応できる態勢を整えます。

それぞれのスタッフは密接に仕事を行い、私はACCEと呼ばれる空軍部隊調整分隊を指揮しながら、在日米軍と第13空軍、ハワイの統合軍航空部隊の各司令官を支えるために第5空軍と第13空軍第1分遣隊をまとめています。

最後にもう一つ付け加えることがあります。今日は過去と現在のリーダーのレベルについていろいろと話をしてきました。そしてそのレベルで成し遂げてきたことを私自身とても誇りに思っています。しかし、航空自衛隊と米空軍の若い下士官や将校の日々の任務遂行に触れ、感謝しなければ不十分であります。空軍所属の若い家族に焦点をあて、彼らの数々の犠牲に感謝するため空軍参謀総長のシュウォルツ大将とドンリー空軍長官は2010年を「空軍家族の年」としました。この事に触れるのには二つの理由があります。一つは私自身、できる限り家族の努力を評価し、彼らの支援なしには任務は遂行できないと伝えるようにしています。このことは日本もアメリカも同じだとも思います。二つ目の理由は、家族も含めてみんなが、冒頭に述べた航空に関する事への愛情で結ばれた大きな空軍家族であると考えからであります。

これで私の話を終わらせていただきますが、改めましてこのような機会を頂きましたことにお礼を申し上げます。二つの国が強い絆を維持してきた50年間はとても長い年月であり、頭に浮かんでいくつかの出来事を紹介させていただきました。私のずっと先の後任者がJAAGAの50周年記念行事で私のように皆さまにお話をする幸運に恵まれることを祈っています。今日とまったく同じ参加者ということは無理かもしれませんが、日本は長寿の国でありますので、必ずしも不可能ということはないと思います。まだまだ何時間でもお話しすることはありますが、皆さまのご質問にもお答えしたいので、これで終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

第1号議案

平成21年度事業報告

(自平成21年4月1日～至平成22年3月31日)

第1 事業実績の概要及び会勢の現状

主要事業は、概ね計画どおり実施し、JAAGA事業を通じて、航空自衛隊と米空軍との相互理解及び友好親善の増進に寄与できた。

平成21年度末の会員数は、359（正会員242名、個人賛助会員60名、法人賛助会員49名及び名誉会員8名）であり、21年度当初会員370から、正会員7名の減、個人賛助会員3名の増、法人賛助会員7名の減となった。

第2 事業等の実施状況

1 日米隊員の激励等

(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

22. 9.18、レッド・フラッグ・アラスカ09参加部隊（第6航空団飛行群基幹）に対する激励を飯田航空総隊司令部幕僚長を通じて実施した。（内山、射場、石黒、源理事）

22. 2.15、コープ・ノース・グアム09参加部隊（第8航空団飛行群基幹）に対する激励を訓練視察官岩崎航空総隊司令官に託して実施した。（堀、射場、原田理事）（コープ・エンジェルは未実施）

(2) 日米隊員の表彰

22. 2. 5、那覇基地隊員クラブにおいて、米空軍第18航空団デニスM. オグレディ空軍曹長及び那覇救難隊熊坂弘樹1等空曹を優秀隊員として表彰した。（来賓：平田南西航空混成団司令、宮川那覇基地司令、森部那覇救難隊長、ウィルズバック第18航空団司令、山縣沖縄県防衛協会事務局長他3名）（JAAGA参加者：遠竹会長、香川理事、名富事務局長）

22. 2.10、入間基地入間インにおいて、米空軍第374空輸航空団アレックス・モンティール空軍曹長及び航空総隊司令部北林樹空軍曹長（横田連絡官室）並びに航空保安管制群森潤史1等空曹を優秀隊員として表彰した。（来賓：渡邊 中部航空方面隊司令官、池田入間基地司令、木村 航空保安管制群司令、ケサダ374任務支援群司令、荻野入間航友会副会長他基地周辺協力者2名）（JAAGA参加者：清水副会長、香川、小川、阪東、高橋理事）

22. 2.19、三沢基地隊員クラブにおいて、米空軍第35戦闘航空団マイケル W. ワーカブ空軍曹長及び第3航空団基地業務群大澤茂雄准空尉（三沢基地准曹会会長）を優秀隊員として表彰した。（来賓：彌田北部航空方面隊司令官、前原三沢基地司令、塩田基地業務群司令、スティルウェル第35戦闘航空団司令、中屋敷三沢市自衛隊協力会専務理

事他基地周辺協力者4名）（JAAGA参加者：越智副会長、香川理事、丸山三沢支部長、山本事務局長、佐々木会員）

2 日米隊員の交流等支援

(1) 日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員の支援

21. 9.17、空自の受け入れ基地に対する激励を廣中空幕人教部長を通じて実施した。（小川、田中、石黒、原田理事）

①那覇：21.10. 1～10. 9、嘉手納基地から6名参加

②松島：22. 2.22～ 2.26、三沢基地から7名参加

22. 2. 5、米軍の受け入れ基地に対する激励をアンジェレラ第5空軍副司令官を通じて実施した。（廣瀬理事長、新井、田中、源理事）

①嘉手納：22. 2.12 ～ 2.18、空自から7名参加

②横田：22. 2.24 ～ 3. 4、空自から7名参加

③三沢：22. 3.24 ～ 3.30、空自から8名参加

(2) 日米交換幹部計画等空自米空軍交換・交流活動に参加する日米隊員の支援

該当事項なし

3 米空軍軍人の日本研修等支援

(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援

21.10.27,28、第5空軍A1部長以下7名参加の賛助会員招待の日光等史跡研修を小川、射場、高橋理事が支援した。

(2) 米空軍軍人の地域行事等支援

ア スペシャル・オリンピックの支援

21.5.23,24、横田基地関東スペシャル・オリンピックの開会式に廣瀬理事長、阪東理事が参加し、支援した。

21.10. 3、三沢基地スペシャル・オリンピックの開会式に丸山三沢支部長、山本事務局長が参加し、支援した。

21.11.14、嘉手納基地スペシャル・オリンピックの開会式に石津沖繩支部長が参加し、支援した。

イ 米空軍人及び家族のねぶた祭り参加支援

21. 8. 4、第35戦闘航空団司令ご夫妻以下31名（米海軍10名を含む）のねぶた祭り参加を三沢支部（丸山支部長、山本事務局長夫妻）が支援した。

4 JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流

(1) SPORTEX'09

ア SPORTEX'09-A

21.10. 2、多摩ヒルズにおいて米軍及び会員83名（米軍：31【1】、会員：52【5】）の参加を得て実施した。（注：【 】内はボランティア参加で

内数)

イ SPORTEX'09-B

平成22年度に繰越実施

(2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

21. 4.11、ニューウェル横田基地司令の送別会に廣瀬理事長、阪東理事が参加した。

21. 4.14、ニューウェル横田基地司令の指揮権交代式に阪東理事が参加した。

21. 5.13、ライス第5空軍司令官主催のシュワルツ空軍参謀総長歓迎昼食会に遠竹会長が招待され、参加するとともに表敬した。

21.7.4、9、第18航空団司令交代（ウィリアムズ准将→ウィルズバック大佐）に伴うレセプション及びチェンジ・オブ・コマンドに石津沖繩支部長が参加した。

21. 7.24、第374空輸航空団ジョーダン最先任上級曹長の送別会に阪東理事が参加した。

21. 9.24、ヒックス横田基地司令主催のノース太平洋空軍司令官歓迎昼食会に遠竹会長が招待され、参加するとともに表敬した。

21.12. 7、マイヤーズ名誉会員来日に伴う歓迎懇談会を杉山顧問、遠竹会長他5名の役員の参加を得てホテル・オークラで実施した。

22. 3.18、来日したホール名誉会員を遠竹会長、堀理事、大谷会員が表敬し、懇談した。

(3) 米空軍協会（AFA）総会への参加

21. 9. 6～17、遠竹会長以下5名がAFA総会に参加するとともに、太平洋空軍等を訪問及び名誉会員との旧交を温め、日米親善の交流を深めた。

(4) 在日米空軍各基地との連携の強化

21. 7. 4、横田基地2009年米国独立記念祭に廣瀬理事長以下5名が参加した。

21.8.22,23、横田基地日米友好祭2009に阪東、源理事並びに山岡、石川会員が参加した。

21. 9.25、三沢基地2009エア・フォース・ボールに丸山三沢支部長夫妻が参加した。

21. 9.26、横田基地2009エア・フォース・ボールに阪東理事夫妻が参加した。

21.11.14、ボールデンNASA長官（元在日米軍副司令官）が主賓の横田基地・海兵隊ボール2009に大橋、岡本会員及び越智副会長、阪東理事夫妻が参加した。

21.12. 4、在日米軍副司令官アンジェラ准将の昇任パーティに越智副会長、廣瀬理事長、山本、新井、阪東理事が参加した。

21.12. 5、第5空軍司令官主催のオープン・ハウスに遠竹会長、廣瀬理事長、小川、高橋、阪東、源理事夫妻が参加した。

21.12.12、第35戦闘航空団司令主催のオープン・ハウスに丸山支部長夫妻が参加した。

21.12.13、第374空輸航空団ホリディ・レセプションに廣瀬理事長、高橋、阪東理事が参加した。

(5) 米空軍慶弔への対応

グリーティング・カードを84通送付した。

(6) 関係団体との交流

ア 日米ネービー友好協会総会等への参加

21. 4.23、総会に続く懇親会（G・H市ヶ谷）に遠竹会長が参加した。

21.11.25、秋季懇親会（横須賀）に廣瀬理事長が参加した。

イ 福生横田友好協会との交流

21. 8. 6、横田基地周辺市町と横田基地友好協力5団体主催の横田基地司令ヒックス大佐の歓迎会に越智副会長、阪東、山本、源理事が参加した。

22. 1.17、横田基地近隣市町友好クラブ合同新年会に越智副会長、廣瀬理事長、高橋、阪東、源理事、石川会員が参加した。

5 広報及び広報協力

(1) 日米要人等の講演

ア 空幕部長等の講演

21.11.19、統合幕僚監部運用部長 齊藤空将から「統合運用の今」と題する講演を頂いた。参加者は正会員及び賛助会員約100名であった。

イ 米要人等の講演

21. 5.21、第18航空団司令 ウィリアムズ准将から「US AIR FORCE ON OKINAWA」と題する講演を頂いた。参加者は正会員及び賛助会員並びに招待者約180名であった。

(2) 米軍基地等の研修

21. 9.30、JAAGA賛助会員の米軍横田基地研修（団長：八木達也氏以下31名）を実施し、理事5名で支援した。（石渡、阪東、北村、古畑、田中理事）

22.2.18,19、JAAGA賛助会員の嘉手納基地等研修（団長：太田茂氏以下31名）を理事5名で支援した。（小川、新井、高橋、源、石渡理事）

(3) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

要請がないため未実施

イ 米空軍に対する広報支援

要請がないため未実施

ウ 大学生等の米軍基地研修支援

要請がないため未実施

(4) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布

21. 6.30、だより36号を発行・配布した。

21.12.15、だより37号を発行・配布した。

(5) 一般広報

ア 関係広報誌等への投稿、情報の提供等

イ インターネット・ホームページの運営

ウ パンフレットの増刷

6 総会等

21. 5.21、グランドヒル市ヶ谷において実施した。

総会：正会員56名（委任状169名）の出席をいただき、第1号議案から第6号議案まで原案通りに承認された。

講演会：5(1)イのとおり

懇親会：173名（正会員66名【7名】、賛助会員43名、招待者6名、空自19名、米側招待者27名【5名】の参加を得て実施した。（注：【 】内は、ご夫人数で外数）

7 運営管理

(1) 会勢の拡大等

ア 会員の拡大

正会員：242名（年初会員数：249名）

（新規：14名、退会：21名）

個人賛助会員：60名（年初会員数：57名）

（新規：5名、退会：2名）

法人賛助会員：49法人（年初会員数：56法人）

（新規：1法人、退会：8法人）

イ 支部の活性化等の推進

支部の活動経費を確保し支部の活動の容易化を図ったほか、横田支部の設置について検討を実施

した。

(2) 組織基盤の整備等

ア 引き続きJAAGA事務所においてペーパーレス理事会を試行中

イ ノートパソコンについては、担当理事の私物を活用することとし購入を見送った。

(3) 会員名簿の作成・配布

21.12.15、会員名簿を作成・配布した。

(4) 役員会及び理事会

ア 役員会

21.6.30(火)、21.9.29(火)、21.12.15(火)、22.3.30(火)

イ 理事会

21.4.21(火)、21.5.29(金)、21.7.24(金)、21.10.27(火)、21.11.24(火)、22.1.19(火)、22.2.26(金)

(5) 監査

21. 4.17、平成20年度収支決算及びJAAGA事務用品の監査を実施した。

22. 4.15、平成21年度収支決算及びJAAGA事務用品の監査を実施した。

第2号議案

平成21年度決算報告

(単位：円)

収 入			支 出			
区 分	予 算 額	執 行 額	予 算 科 目	予 算 額	執 行 額	
前 年 度 繰 越	5,638,167	5,638,167	事 業 費	共同訓練激励費	300,000	200,000
年 会 費	4,201,000	4,352,160		表彰関係費	450,000	445,814
利 息	2,000	888		友好親善行事費	1,180,000	936,305
寄 付 金	—	0		広 報 費	1,470,000	1,025,516
雑 収 入	—	0		総 会 費	400,000	429,413
			小 計	3,800,000	3,037,048	
			運 営 管 理 費	入 会 活 動 費	80,000	47,804
				名 簿 関 係 費	120,000	113,722
				役 員 会 運 営 費	230,000	235,264
				支 部 運 営 費	120,000	120,420
				事 務 所 通 信 費	220,000	120,210
				事 務 通 信 費	150,000	756,177
			小 計	920,000	756,177	
			予 備 費	200,000		
			支 出 計	4,920,000	3,793,225	
			翌 年 度 繰 越	4,921,167	6,197,990	
合 計	9,841,167	9,991,215	合 計	9,841,167	9,991,215	

第3号議案

平成22年度事業計画

(自平成22年4月1日～至平成23年3月31日)

第1 事業運営方針

各種事業の着実かつ積極的な推進を図るとともに、JAAGA創立15周年記念事業の準備を開始する。

第2 実施事業等の概要

1 日米隊員の激励等

(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

実施事項：日米共同訓練に参加する日米隊員の激励・慰問

対象訓練：レッド・フラッグ、コープ・ノース・グアム、コープ・エンジェル等

時期：日米共同訓練実施時

(2) 日米隊員の表彰

表彰人員：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇等各基地日米隊員1名基準

実施基地：三沢、入間、那覇の各基地

時期：平成23年2月、3月

(3) 日米隊員の交流活動等激励

実施事項：日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員の激励

実施時期：3/四～4/四半期

2 米空軍軍人の日本研修等支援

(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援

実施事項：賛助会員招待の日光等史跡研修支援

対象：米空軍軍人（夫妻等10名基準）

時期：平成22年9月

(2) 米空軍軍人の地域行事等支援

ア スペシャルオリンピックの支援

時期及び基地：平成22年5月15日（土）

（横田基地）

平成22年8月28日（土）

（三沢基地）

3/四半期（嘉手納基地）

イ 米空軍人及び家族のねぶた祭り参加支援

時期：平成22年8月

3 JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流

(1) SPORTEX'10

ア SPORTEX'09-B（21年度繰越分）

場所：多摩ヒルズ

参加者：正会員、空自隊員及び米空軍軍人104名

時期：平成22年4月29日（祝日）

イ SPORTEX'10-A

場所：多摩ヒルズ

参加者：会員及び米空軍軍人 約100名

時期：平成22年10月1日（金）

ウ SPORTEX'10-B

場所：多摩ヒルズ

参加者：正会員、空自隊員及び米空軍軍人

約100名

時期：平成23年3月21日（祝日）

(2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内

時期：都度

(3) 米空軍協会（AFA）総会への参加

時期：平成22年9月

(4) 在日米空軍各基地との連携の強化

対象基地：三沢、横田、嘉手納

実施事項：①各基地との緊密な調整、広報資料の提供等

②オープンハウス等各種基地行事への参加

(5) 米空軍慶弔への対応

必要に応じて慶弔意を表すとともに、グリーティングカードを送付する。

(6) 関係団体との交流

ア 日米ネービー友好協会総会等への参加

イ 福生横田友好協会等との交流

4 広報及び広報協力

(1) 日米要人等の講演

ア 空幕部長等の講演

時期：4/四半期

講師：航空幕僚監部 防衛部長

対象：正会員及び賛助会員

イ 米要人等の講演

時期：平成22年5月20日（木）

（JAAGA総会時）

講師：第5空軍副司令官 アンジェレラ少将

対象：正会員及び賛助会員、並びに招待者

(2) 米軍基地等の研修

実施事項：会員の米軍基地等における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等

ア 正会員研修

米軍横田基地：2/四半期

イ 賛助会員

三沢基地：4/四半期

(3) 日米安保等に関する広報活動

ア 講演会等への講師派遣等

実施事項：部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋

実施要領：主催者側の計画（日時、場所、経費、その他）による。

イ 米空軍に対する広報支援

実施事項：米空軍が準備する広報記事を「だより」に掲載（「だより」紙面の提供）

実施要領：米空軍（横田基地広報部）との調整

による。

- ウ 大学生等の米軍基地研修支援
 実施事項：主任教授等を通じた大学生等に対する米軍基地研修の紹介と研修支援
 実施要領：研修者の希望に応じ、米空軍とその都度調整する。
- (4) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布
 発行回数：2回（6月、12月）
- (5) 一般広報
 ア 関係広報誌等への投稿、情報の提供等
 イ インターネット・ホームページの運営
 ウ パンフレットの作成

5 総会等

- (1) 日時：平成22年5月20日（木）
- (2) 場所：グランドヒル市ヶ谷
- (3) 実施事項：総会（参加者：正会員）
 講演会（講師及び参加者：4(1)イのとおり）
 懇親会（参加者：正会員及び賛助会員、並びに招待者）

6 運営管理

- (1) 会勢の拡大等
 ア 会員の拡大
 目標：正会員300名、個人賛助会員50名維持、法人賛助会員50社維持
 実施事項：協会のPR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内
 実施要領：① 会勢拡大のための期別、職域等

を通じた積極的な入会勧誘

- ② 空自退官予定隊員に対する退官時期に合わせた入会案内状の送付
- ③ 部隊訪問時等における会員個々のPR

イ 支部の活性化等の推進
 引き続き、支部活動の活性化を推進するとともに、横田支部（仮称）の設置について検討を継続する。

- (2) 組織基盤の整備等
 ア JAAGA事務所の運営
 イ 備品類及び記念楯の整備
- (3) 会員名簿の作成・配布
 時期：12月
- (4) 役員会及び理事会
 ア 役員会
 時期：四半期毎に1回（基準）
 場所：グランドヒル市ヶ谷
 イ 理事会
 時期：役員会を開催しない月毎に1回（基準、8月を除く。）
 場所：JAAGA事務所
- (5) 15周年記念事業の準備
 15周年記念事業準備委員会を設置し、記念事業の検討・準備を行う。
- (6) 監査
 実施事項：22年度収支決算及びJAAGA事務備品の監査
 時期：平成23年4月

第3号議案付表

平成22年度事業予定表

項目	実施時期	1/四半期			2/四半期			3/四半期			4/四半期		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 日米隊員の激励等	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等 (2) 日米隊員の表彰 (3) 日米隊員の交流活動等激励												
2 米空軍軍人の日本研修等支援	(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援 (2) スペシャルオリンピック支援 (3) 米空軍軍人の地域行事参加支援			○横田			○日光			○NCO支援			
3 JAAGAと空自・米空軍との交流	(1) SPORTEX'10 (2) 指揮官交代行事等への出席等 (3) 米空軍協会総会への参加 (4) 在日米空軍各基地との連携の強化 (5) 米空軍慶弔への対応 (6) 関係団体との交流			○09B:4/29			A:10/1	○					B:3/21
4 広報及び広報協力	(1) 日米要人等の講演 (2) 米軍基地等の研修 (3) 日米安保等に関する広報活動 (4) 会報「だより」の発行・配布 (5) 一般広報（HPの運営等）			○5/20(総会時)			横田						三沢
5 総会及び懇親会				○5/20									
6 運営管理	(1) 会勢の拡大等 ・会員の拡充 ・支部の活性化等 ・横田支部(仮称)設置の検討継続 (2) 組織基盤の整備等 (3) 会員名簿の作成・配布 (4) 役員会(★)・理事会(☆) (5) 監査												
				☆	☆	★	☆	★	☆	☆	★	☆	☆
				○前年度分									

凡例：←→ 年間を通じて実施 —— 実施時期未定

第4号議案

平成22年度予算

(単位：円)

収 入		支 出		
区 分	予 算 額	予 算 科 目	予 算 額	
前 年 度 繰 越	6,197,990	事 業 費	共同訓練激励費	600,000
年 会 費	3,778,000		表彰関係費	450,000
利 息	1,000		友好親善行事費	970,000
寄 付 金	—		広 報 費	1,350,000
雑 収 入	—		総 会 費	450,000
		小 計	3,820,000	
		運 営 管 理 費	入会活動費	60,000
			名簿関係費	120,000
			役員会運営費	230,000
			支部運営費	120,000
			事務所運営費	170,000
			事務通信費	130,000
		小 計	830,000	
		予 備 費	200,000	
		支 出 計	4,850,000	
		翌年度繰越	5,126,990	
合 計	9,976,990	合 計	9,976,990	

第5号議案

役 員 の 選 任

職 名	氏 名	
会 長	津曲義光 (新)	
副 会 長	四ッ家邦紀 (新)、榎 利美 (新)、小田邦博 (新)	
理 事	理 事 長	香川清治
	副理事長	永岩俊道 (新)
	企 画	堀 好成、安宅耕一、笠原 久(新)、射場義彦、織田邦男(新)、井上 勝(新)、戸田友敬(新)
	総 務	小川剛義 (再)、岡本秀夫、鈴木直人、野田耕平、永田久雄 (新)
	渉 外	山本隆之、阪東政詮、新井洋一、辻 章嗣、菊川忠継 (新) 桃木正幸 (新)
	会 員	石渡幹生、松田和彦、美馬 博
	広 報	双石芳則、源外志明 (再)、原田千敏、高橋健才、古畑 徹
事	財 務	高橋健二、田中和之、藤井泰司 (新)
	理 事	石黒正昭、鬼塚恒久 (再)
	監 事	北村善信 (新)、稲葉憲一 (新)
支部 役員	支 部 長	丸山 泰 (三沢) 石津 靖 (沖縄) (再)
	支部事務局長	山本親男 (三沢) (再) 名富忠夫 (沖縄) (再)

注：再は再任、新は新任

【退任】 会 長：遠竹郁夫 副会長：清水正睦、森 和彦、越智通隆
 理 事：廣瀬紀雄、内山好夫、宇都宮 靖、正岡富士夫
 監 事：橋本康夫、高島秀雄

新入会員紹介

1 正会員

氏名	住所	氏名	住所
山地英一	茅ヶ崎市	田母神俊雄	鳩ヶ谷市
藤井泰司	川口市	戸田友敬	春日部市
永田久雄	調布市	片山隆仁	千葉市
池田勝	練馬区	富岡幹博	石岡市
池田眞	横浜市	山本康正	柏市
金子康輔	川越市		

2 個人賛助会員

氏名	住所	氏名	住所
砂川米一	那覇市	関根浄治	出雲市

3 法人賛助会員

氏名	住所
沖縄県自衛隊父兄会	那覇市

会員募集

今期は関係各位のご努力で正会員10名、個人賛助会員2名、法人賛助会員1社の合計13名の入会を得ることができました。会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が246名(22.6.15現在)と目標にはるかに至っておりません。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正会員：航空自衛隊のOB

個人賛助会員：航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

【郵便】〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSKビル3F

日米エアフォース友好協会 会員担当 行

【電話：メール】 石渡 幹生：m-ishi@shimadzu.co.jp 03-3219-5638

美馬 博：h-mima@zp.jp.nec.com 03-3353-9720

松田 和彦：kazuhiko_matsuda@mhi.co.jp 03-6716-4433

編集後記

だより38号は、平成22年度総会及び懇親会、講演会、日米隊員の交流支援、在日米軍行事への参加、SPORTEX等、この半年ほどの間のJAAGAの活動状況を伝えています。今年は1960年に改定された日米安全保障条約50周年の年に当たっていますが、JAAGAのこのような活動は、必ずや次の50年の日米関係の礎になるものと思います。本誌もJAAGA広報誌として今後とも積極的に活動状況を広報していきたいと思っておりますので、皆様からの投稿、ご意見をお待ちしております。

(編集子一同)